

若者に地域コミュニティに参加してもらおう！①

～常磐大学砂金ゼミナール

まちづくり企画室～

茨城町では、地域課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与することを目的に、常磐大学と官学連携協定を締結しています。
今回、行政課題の一つである「地域コミュニティ」について、常磐大学砂金ゼミナールの3年生より、意見が寄せられましたので掲載いたします。



私たち常磐大学砂金(いさぎ)ゼミナールは、コミュニティ振興学部で、まちづくりや地域振興について研究しています。

昨年の東日本大震災を機に、地域コミュニティの「絆」があらためて見直されています。しかし、これからの地域を担うべき若者たちの多く

は、地域コミュニティを倦厭する傾向があると言われています。そこで私たちは、若者たちがもっと地域コミュニティに参加するための方策を、3回に分けて考えてみたいと思います。

若者が地域コミュニティに参加しない理由とは

最近の若者たちは、地域コミュニティに参加しなくなっていると言われています。私自身も最近の若者の一人として、その通りだと思っています。

では、なぜ若者は地域コミュニティに参加しようとしないのでしょうか。私はこの問題について、「地域コミュニティの現状」と「若者が地域コミュニティに参加しない理由」の2点から考えてみたいと思います。

まず、地域コミュニティの現状についてですが、現在の日本は少子高齢化社会だと言われているように、若者の数自体も昔と比べて減少しています。そのことは茨城県も例外ではなく、2012年1月31日付の『読売新聞』では「2012年1月1日現在の県内推計人口減少数は昨年同時点より、1万4,444人減の295万4,126人となり、8年連続で減少し、記録が残る1965年

以降、最多となった」と報道されています。つまり、このままでは地域コミュニティの存続は困難であるといえます。

次に、若者が地域コミュニティに参加しない理由はなんでしょうか。これは自分一人で考えていても答えが出なかつたので、同年代の友人たちに聞いてみることにしました。それによると、若者が地域コミュニティに参加しない理由は大きく4種類に分かれました。その内容とは「いづどんな活動をしていくかわからない」「地域コミュニティの活動に興味がない」「参加することに特にメリットがない」「時間が無い」というものでした。

私はこのことから若者をコミュニティ活動への参加を促進するには、①活動を周知徹底すること、②若者が興味を示すような内容であること、③参加することに何かしらのメリットがあること、④活動を行う時期や時間に留意すること、の4点に注意する必要があると考えます。

(皆藤篤)

ICTを活用してのきっかけづくり

内閣府の『国民生活白書』によると、若者がコミュニティに参加しな

い理由として、「参加するきっかけが得られない」「身近に団体や活動内容に関する情報がない」など、参加へのハードルの高さが指摘されています。逆に、コミュニティに参加するきっかけとしては、「友人や親に誘われた・勧められた」というものが多く、自主的な参加は少ないのが現状となっています。つまり、そのコミュニティ活動に関する情報の少なさと、人的な繋がりを含むきっかけが不足していることが、若者の地域コミュニティ参加の高い壁になっていると考えられます。

そこで、私が提案するのは、若者が日常的に情報収集等のツールとして利用しているICT(情報通信技術)を活用して、若者のコミュニティ参加のハードルを下げようということです。

このICTの代表例として挙げられるのが、mixiやFacebookなどインターネットを活用したSNS(ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス)です。SNSは、いつでもどこからでもリアルタイムで気軽に参加できるというメリットがあり、特に携帯電話からも参加できるのは、普段から携帯電話を頻繁に利用する若者にとって、コミュニティ

参加の足掛かりとして有効だと思えます。

2004年12月には熊本県八代市で日本初の地域SNS「ごろっとやっちょろ」が登場し、サイトのSNS化によりアクセス数は飛躍的に伸びていきました。現在は500以上の地域SNSが存在し、それは年々拡大傾向にあります。

これからの時代はICTを活用したコミュニケーションが必要となってくると同時に、若者がそれを望んでいる面もあるように思います。地域SNSに参加していれば、地域コミュニティの情報を得ることが容易になります。地域SNSで交流を広めれば、人的な繋がりが生まれます。それらは今まで不足していた「若者のコミュニティ参加のきっかけ」となるのではないのでしょうか。

(佐藤絳平)

「コミュニティに参加する若者に特典を

若者がコミュニティに参加しない主な原因は「コミュニティに関心が持たない」からだと思えます。残念ながら、コミュニティを通じて地域の発展のために貢献しようと考えている若者はごく少数しかいないのではないのでしょうか。

私は若者のコミュニティ参加を促すためには、若者が喜ぶ何らかの特典を与えるなどの方策が必要だと考えます。その方策のひとつとして、地域通貨を用いて若者のコミュニティ参加を実現した、東京都渋谷区の「アースデイマナー」をご紹介します。

アースデイマナーは、若者に街の美化などの社会貢献活動や、ボランティアに興味を持ってもらうために始められた、地域通貨の取り組みです。これは街の美化などの社会貢献活動、ボランティアなどに協力した対価として贈られます。アースデイマナーはチケットの形のほか、パソコンや携帯電話などを通じてネット上の口座に貯めることも可能です。

アースデイマナーは貯めた額に応じて、渋谷周辺のお店などで割引やプレゼントなど、様々な特典が受けられるという仕組みになっています。またこの取り組みと連動して、渋谷区では月に一度、区内の代々木公園で開かれる農業生産者による青空市場「アースデイマーケット」が開催されています。これには東京近郊の生産者など60以上の店が集まり、有機野菜や加工物などが販売され、現金だけでなくアースデイマナーでも購入することができます。また出店料は1店舗8,000円です。

が、お客さんから受け取ったアースデイマナーで支払うことも可能です。これらの取り組みの結果、アースデイマナー利用者は5,000人以上にのぼり、アースデイマーケットに若者主体の団体も多数参加するようになりました。地域通貨を通じて、若者のコミュニティ参加を実現したのです。

(竹田祥悟)

【問合せ先】

茨城町まちづくり推進課
☎240-7126
FAX 029-292-6748
またはメールにて。(茨城町ホームページTOPメールフォームから)

内容に関するご意見・ご要望は、まちづくり推進課を通して常磐大学にもお伝えいたします。